



携帯翻訳機を手にウクライナ避難民の受け入れについて
話す佐々木さん

母娘、月内に入居
するには初となる。

1990年代以降は、
チエルノブリ原発事故による被爆者支援を長く続けるなどウクライナと関わりがあった。

軍事侵攻で多くのウクライナ国民が犠牲となり、避難を余儀なくされている現状に「自分にできることをやろう」と受け入れを決意。知人らと情報共有しながら準備を進めてきた。

今回、社宅に入る母親(41)と女児(12)。2人は今月中に来日し、大仙市に移動して入居する予定。来月には65歳の女性の受け入れを寄付する。連絡先は佐々木興業(75)。

ウクライナ

ロシアの軍事侵攻を受けてウクライナを脱出した母娘2人が今月、大仙市入りする。身元引受人として準備を進めるのは、住宅設備管理などを手掛ける佐々木興業(大仙市)の佐々木正光社長(71)。社宅用の住宅を提供し、最終的には15人程度を受け入れる予定。秋田県によると、県内でウクライナ避難民を招き入れるのは初となる。

大仙・佐々木さん

母娘、月内に入居

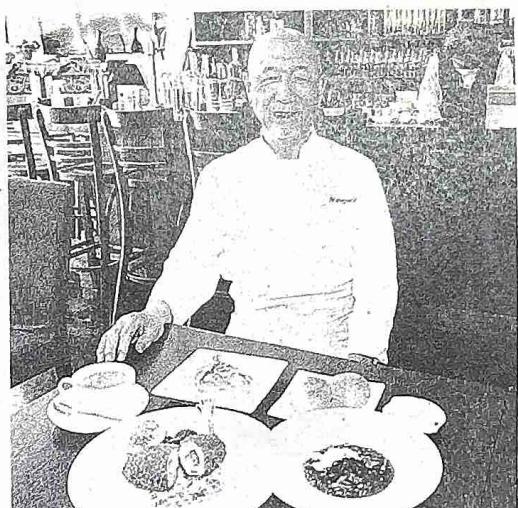
きつかけは、ロシアが軍事侵攻した直後の2月末、佐々木さんが所属する日本ウクライナ・モルドバ友好協会の知人から打診を受けたことだった。

佐々木さんは20代の頃からソマリアにコメを送るなど国際協力活動をしてきた。秋田市内でタクシードの運転手をしているウクライナ人のナターリア・サンガルさん(45)と連絡

避難民・社宅で受け入れ

ランチ売り上げ一部寄付

弘前のシェフメニュー考察



ウクライナ風ランチを考案した山崎さん

フランス料理を提供する「レストラン山崎」(弘前市)のオーナーシェフ山崎隆さん(69)は、全ての料理にウクライナの要素を取り入れたランチを考案、売り上げの25%をウクライナ避難への支援金に充てる取り組みを始めた。1食1980円で、隣接の「カフェ山崎」で提供する。メインは「チキン・キウ(キエフ)風」。スープは「ウクライナ風ボルシチ」。ライ麦パンも添える。アップルパイの生地は「ラズベリー」、ウクライナをイメージしたヒマワリオイルを

練り込んだ。国旗の黄色と同じ色のリンゴ「王林」を使うこだわりようだ。

連日の報道を見て「一料理人として何かできないか」と思案。避難への食事代を寄付することに決めた。「食事は人を幸せにする」とほほ笑む。

山崎さんの父は第2次世界大戦後、旧ソ連に抑留された過去があり、「侵略は許さない」と批判。「ロシアの侵略は、日本にとってもひとじじやない。何もできない」と思っている人も気軽に食べに来てほしい」と話した。